

高等部分教室・教室の状況について

特別支援教育課
平成 31 年 2 月 19 日

1 設置状況

(1) 対象生徒

- ・知的障がいのある人
- ・設置校生徒と同一敷地内で学校生活を送ることができる人
- ・日常の学校生活において医療的ケアを必要としない人
- ・身辺自立と、徒歩・公共交通機関による自立通学ができる人

○ 地域や設置校との連携により、社会的自立、職業的自立（一般就労）を目指す

(2) 設置校

専門学科のある高校内及び同地区の盲学校内に設置してきた。

(H30年度)

設置した分教室・教室	設置した場所	設置年度	定数	生徒数
稲荷山養護学校 更級分教室	更級農業高校	H17	24	21
安曇養護学校 あづみ野分教室	南安曇農業高校	H22	24	22
長野養護学校 朝陽教室	長野盲学校	〃	24	16
伊那養護学校 中の原分教室	上伊那農業高校	H24	24	21
小諸養護学校 うすだ分教室	佐久平総合技術高校（臼田キャンパス）	H26	24	13
長野養護学校 すざか分教室	須坂創成高校（旧須坂商業キャンパス）	H28	33	26
松本養護学校 しなの木教室	松本盲学校	H28	24	22
諏訪養護学校 ふじみの森分教室	富士見高校	H31	24	

2 卒業生の就職状況

()は高等部全体

	H27	H28	H29
卒業生数	28 人 (363 人)	30 人 (355 人)	31 人 (368 人)
一般就労者数	21 人 (72 人)	25 人 (93 人)	25 人 (98 人)
就職率	75.0% (29.4%)	83.3% (30.1%)	80.6% (26.6%)

3 特色の例（詳細は次頁参照）

- 高校内設置や少人数編成を生かした特色ある教育課程を編成できる。
 - ・農作物の育成や食品加工など、高校との共同作業学習の実施（全分教室）
 - ・高校生とともにフォークリフト免許を取得（更級分教室）
 - ・高校生とともに接客マナー講座を受講（すざか分教室）
 - ・すべての生徒が「介護職員初任者研修」を修了する（うすだ分教室）
- 同年代の高校生・盲学校生との交流により、対人関係力や自己肯定感を高める機会となる。高校生にとっては、障がい理解の促進、多様性を尊重する心の育成につながる。
 - ・高校の文化祭オープニングセレモニーにおける舞台発表（更級分教室）
 - ・高校の文化祭における作品の出品や販売等の交流（全分教室）
- 進路指導主事の配置による進路指導及び設置校との連携の強化を図っている。(H31～)

4 教育課程の特色

	作業学習等	設置校等との交流
更級分教室 (稲荷山養護)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビルクリーニング ・作業実習(老人福祉施設、更農のワックス剥離・塗布、床清掃等) ・農耕園芸作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・更農祭、収穫祭、防災訓練、交通安全教室参加 ・更農アグリネットワークコースとの交流及び共同学習 ・更農でフォークリフト免許取得
あづみ野分教室 (安曇養護)	<ul style="list-style-type: none"> ・藍栽培(藍染め・ろう引き) ・木工 ・ミシン ・業者委託作業 ・食品加工(南農飼育卵を使用した菓子) ・果樹栽培(ぶどう・りんご) ・地元企業での現場実習 ・「図書館の時間」(南農図書館利用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・南農グリーンサイエンス科果樹研究部等との交流 ・南農祭や対面式参加、製品販売 ・地域対象「藍染め体験講座」の講師
朝陽教室 (長野養護)	<ul style="list-style-type: none"> ・農耕園芸作業(野菜栽培、花壇製作) ・近隣事業所・店舗等と契約した作業 ・学校設定科目「福祉」 老人福祉センター訪問実習等 ・アビリンピック参加(喫茶、オフィスアシスタント、フラワーアレンジメント) 	<ul style="list-style-type: none"> ・長野盲、老人福祉センターでの収穫物販売
中の原分教室 (伊那養護)	<ul style="list-style-type: none"> ・藍栽培・棉栽培 ・製品製作(手紡ぎ、染色、機織り、手編み) ・製品販売(糸紡ぎ実演等) ・「広がり」の時間(自分で計画実行学習) ・現場実習(福祉事務所、喫茶等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業「グリーンライフ」で上農と農場共同作業 ・上農祭、収穫祭、強歩大会、新入生歓迎会、対面式参加 ・上農での分教室発表
うすだ分教室 (小諸養護)	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉学習 介護職員初任者研修講座の受講 ・工芸、縫製 ・園芸 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人「恵仁会」との提携 ・佐久総(臼田キャンパス)との連携
すざか分教室 (長野養護)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビルメンテナンス(床・窓清掃) 地元店舗等での作業実習 「技能検定」参加 ・農耕園芸(野菜、ビニールハウス導入) ・食品加工(クッキー、パウンドケーキ) カフェ形式の出店予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・須坂創成マーケット参加 ・須坂創成の接客マナー講座受講
しなの木教室 (松本擁護)	<ul style="list-style-type: none"> ・信大実習 信大キャンパスの美化作業 旭会館食堂の食器洗浄作業 ・育苗、花壇整備作業 安原地区公民館の花壇づくり ・食品加工(パン製作販売予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・松本盲との交流(焼肉会、ハロウィンパーティ、クリスマス会等) ・松本盲の活動参加 体育祭の競技やダンス 文化祭でのステージ発表や作業・販売 ・信大との提携 ・安原地区公民館との交流

<参考> 分教室と高等特別支援学校の比較

○ 高等特別支援学校とは

特別支援学校には小学部、中学部、高等部が併設されていることが多いのに対して、高等特別支援学校は、高等部単独で設置される。一般企業への就職ができる可能性が高い生徒に対して、就労に重点を置いたカリキュラムで教育する。

【例】

(1) 滋賀県

県立高等養護学校が3校ある。3校とも、県立高校と同一敷地内に設置されており、30年度から、「普通科」から「しごと総合科」に学科改編し、より職業的自立に向けた教育課程を編成している。

(2) 大阪府

府立高等支援学校が6校ある。うち職業学科のある4校(2020年度から5校)は、「共生推進教室」を府立高校内に設置し、両校の連携協力のもとで生徒が学んでいる。

(3) 兵庫県

県立高等特別支援学校が4校ある。うち「阪神昆陽特別支援学校」は多部制単位制の阪神昆陽高校と同一敷地内に同時設置され、共同学習等に取り組んでいる。

(4) 群馬県

県立高等特別支援学校が6校ある。うち「伊勢崎高等特別支援学校」は27年度に分校から単独校化された。これにより、学科に合った環境が整備されるとともに、未設置地域の解消が実現した。

	分教室	高等特別支援学校
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大人数に抵抗のある生徒のニーズに合わせた小集団による学習 ○ 併置校の特色も生かした教育課程の編成 ○ 併置校の生徒との日常的な交流が可能 ○ 地域と連携したきめ細かな就労支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設設備面・スタッフ人数の充実による、多様な教育課程の編成が可能 <ul style="list-style-type: none"> ・専門学科や作業学習の充実(多くの科目設定が可能) ・管理職、事務職員、養護教諭の配置 ○ 高校と連携している学校では、高校生との日常的交流
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設設備面・スタッフ人数の不足 <ul style="list-style-type: none"> ・限られた作業学習 ・管理職、事務職員、養護教諭の不在 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域バランスを考慮した複数校の配置が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・遠距離通学の負担 ・寄宿舎の整備 ・新設のための施設設備面及び人的予算